

問1 律令制度のもと、都から地方へ行政命令が伝えられ、民衆に届くまでの仕組みについて説明した文として、最も適切なものはどれですか。

(2025年 山口県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 幕府から派遣された守護が、現地の役人である国司を指揮し、荘園領主を通じて民衆に命令を伝達した。 | 2. 地方豪族が都へ赴いて国司となり、天皇から直接受けた命令を、現地で採用された地頭を通じて民衆に伝達した。 | 3. 中央の役人である郡司が、各地方に置かれた国司に命令を伝え、そこから代官を通じて民衆に伝達された。 | 4. 中央から派遣された国司が、地方豪族から任命された郡司に命令を伝え、さらに里長などを通じて民衆に伝達された。 |
|--|--|---|--|

問2 奈良時代の聖武天皇の時代を中心に、仏教の力で国家の安定を図る「鎮護国家」の思想に基づいて発展した文化があります。この文化は、遣唐使によってもたらされた唐の進んだ制度や、シルクロードを経由した西アジアの文化の影響を強く受けているのが特徴です。この文化の名称と、その国際的な性格を象徴する施設についての説明として最も適切なものはどれですか。

(2023年 滋賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 飛鳥文化と呼ばれ、法隆寺の建築に見られるように中国や朝鮮半島の技術が取り入れられた。 | 2. 弘仁・貞観文化と呼ばれ、最澄や空海が伝えた密教の影響を受けた仏像が多く作られた。 | 3. 国風文化と呼ばれ、日本独自の美意識に基づいたかな文字や物語文学が発展した。 | 4. 天平文化と呼ばれ、正倉院にはペルシャ風の器物などの国際色豊かな宝物が納められた。 |
|---|---|--|---|

問3 聖武天皇が鎮護国家の思想に基づき、国の安泰を願って実施した具体的な政策の組み合わせとして正しいものはどれですか。

(2021年 沖縄県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------------------|-------------------------------|----------------------------|------------------------------|
| 1. 藤原京から平城京への遷都と、律令の完成 | 2. 全国への国分寺・国分尼寺の建立と、東大寺での大仏造立 | 3. 遣唐使の派遣による唐の文化の導入と、仏教の禁止 | 4. 三世一身の法による土地私有の公認と、班田収授の徹底 |
|------------------------|-------------------------------|----------------------------|------------------------------|

問4 奈良時代において、仏教の力で国家の安定を図る「鎮護国家」の思想に基づき、全国に国分寺・国分尼寺を建立することを命じた人物は誰ですか。また、その人物の遺品が納められ、国際色豊かな天平文化を今に伝える、奈良市に位置する正倉院との関わりが深い人物を次の中から選びなさい。

(2022年 京都府公立入試 類似)

- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 後三条天皇 | 2. 桓武天皇 | 3. 推古天皇 | 4. 聖武天皇 |
|----------|---------|---------|---------|

問5 8世紀初めに、古くから伝わる神話や伝承を整理し、天皇による国内支配の正当性を示すことを目的として編纂された歴史書を選びなさい。

(2015年 山口県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| 1. 風土記 | 2. 古事記 | 3. 日本書紀 | 4. 万葉集 |
|--------|--------|---------|--------|

問6 奈良時代の文化を象徴する建造物の一つに、東大寺の正倉院がある。この建物にペルシャやインドの影響を受けた工芸品が多数納められている理由として、当時の日本の対外関係をふまえて説明したものとして、最も適切なものはどれか。

(2024年 福井県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 仏教の伝来とともに、百済（くだら）から多くの渡来人が工芸技術を直接日本へ伝えたため | 2. モンゴル帝国によるユーラシア大陸の統一により、陸路での貿易がかつてないほど活発になったため | 3. 遣唐使が、唐の都である長安に集まっていた西アジアや中央アジアの文物を日本に持ち帰ったため | 4. 日本独自の国風文化が広まり、海外との交流を断って国内の伝統工芸を保護したため |
|--|--|---|---|

問7 奈良時代、日本の僧からの要請を受け、遣唐使の船を利用して5度の渡航失敗や失明という苦難を乗り越えて来日した唐の僧侶は誰ですか。来日後は正式な仏教のルールである「戒律」を伝え、後に唐招提寺を建立しました。

(2026年 茨城県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 鑑真 | 2. 行基 | 3. 最澄 | 4. 空海 |
|-------|-------|-------|-------|

問8 奈良時代の聖武天皇の時代、唐から鑑真を日本に招いた歴史的な背景と目的として、最も適切な説明はどれですか。

(2026年 茨城県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 唐の最新の土木技術や灌漑技術を日本に導入し、全国的な社会インフラの整備を促進させるため | 2. 比叡山に延暦寺を建立し、新しい都である平安京の北東を守るための新しい仏教を広めるため | 3. 民衆の間で絶大な人気があったため、大仏造立のための資金や労働力を民衆から集めるリーダーにするため | 4. 僧侶が守るべき規律である「戒律」を導入することで、僧侶の資格を厳格化し、仏教による国家統制を整えるため |
|--|---|---|--|

問9 奈良時代の遺跡から発見された資料において、ある木の板に「産地・品目・送り主」の情報が記されていました。このような「木簡」と呼ばれる資料から読み取れる、当時の社会の様子や仕組みに関する説明として、背景や目的をふまえて最も適切なものを選びなさい。

(2024年 岐阜県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 租として徴収された米を海外へ輸出するために、港で積み荷を管理する台帳として木簡が利用されていた。 | 2. 律令国家の仕組みにより、各地の特産物を納める調や、労役の代わりに布などを納める庸が、全国から都へ集まっていた。 | 3. 仏教の教えを全国に広めるため、聖武天皇が各地の国分寺へ経典の内容を簡略化して記した木板を配布した。 | 4. 防人として九州へ派遣される農民が、自らの氏名や出身地を忘れないよう、政府が公式な身分証として配布していた。 |
|---|--|--|--|

問10 大宝律令が制定された当時の政治の仕組みについて、中央官制の特徴として正しい説明はどれですか。

(2016年 岩手県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---------------------------------------|
| 1. 幕府の最高役職として執権が置かれ、有力な御家人による合議制が行われた。 | 2. 三権分立に基づき、立法・行政・司法の各機関が完全に独立して設置された。 | 3. 地方を治めるために、中央から派遣された有力な武士が守護として各令制国を統治した。 | 4. 神事をつかさどる神祇官と、政治全般を統括する太政官の二官が置かれた。 |
|--|--|---|---------------------------------------|

問11 奈良時代の律令制度において、土地と民衆は国家のものであるという「公地公民」の原則に基づき、戸籍に登録された6歳以上の男女に与えられた土地を何と呼びますか。

(2024年 石川県公立入試 類似)

- | | | | |
|------|--------|-------|-------|
| 1. 佃 | 2. 口分田 | 3. 墾田 | 4. 名田 |
|------|--------|-------|-------|

問12 奈良時代には、遣唐使によって唐の文化だけでなく、西アジアやインドなどの文物が日本に伝えられました。聖武天皇ゆかりの品を収める正倉院の宝物には、インドを起源とし中国で製作された「螺鈿紫檀五絃琵琶」や、西アジア起源のガラス製品である「瑠璃環」などが含まれています。このような、当時の日本が世界各地の文化の影響を受けていたことを示す文化の特色を、どのように表現しますか。

(2023年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------|------------------|-----------|-------------|
| 1. 仏教を排除する傾向 | 2. 武士の好みを反映した力強さ | 3. 国際的な性格 | 4. 日本独自の国風化 |
|--------------|------------------|-----------|-------------|

問13 古代の日本において、対馬や北九州の沿岸部に「防人」が配置された主な理由として、歴史的背景をふまえて最も適切なものはどれですか。

(2017年 神奈川県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------------------|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------|
| 1. 白村江の戦いで敗北後、唐や新羅の侵攻に備えるため | 2. 蝦夷（えみし）と呼ばれる東北地方の人々の反乱を抑えるため | 3. 種子島に伝来した鉄砲の技術が外部へ流出するのを防ぐため | 4. 元寇によるモンゴル帝国の襲来を未然に防ぐため |
|-----------------------------|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 中央から派遣された国司が、地方豪族から任命された郡司に命令を伝え、さらに里長などを通じて民衆に伝達された。	律令国家では、全国を「国・郡・里」という行政単位に分けて統治しました。中央集権的な支配を強めるため、都からは貴族が「国司」として各地方へ派遣されました。しかし、現地の細かな実情を把握する必要があったため、古くからその土地を支配していた「地方豪族」を「郡司」に任命し、国司の指揮下で実務を担わせる二段構えの体制をとりました。守護や地頭は鎌倉時代以降、代官は主に江戸時代の役職であるため、律令制度の説明としては不適切です。
問2	答え 4 天平文化と呼ばれ、正倉院にはペルシャ風の器物などの国際色豊かな宝物が納められた。	聖武天皇は仏教による国家の平安を願い、東大寺の大仏造立や全国への国分寺・国分尼寺の設置を命じました。この時代の文化は「天平文化」と呼ばれ、遣唐使の往来によって唐の文化が直接流入したほか、正倉院の宝物にはギリシャやペルシャ、インドに起源を持つ文様や器物が含まれており、当時の日本が国際的なネットワークの中にあったことを示しています。
問3	答え 2 全国への国分寺・国分尼寺の建立と、東大寺での大仏造立	聖武天皇は、地方の行政単位である各「国」に国分寺と国分尼寺を建てることを命じました。そして都の東大寺に巨大な仏像（大仏）を造立することで、中央から地方まで仏教の力を行き渡らせ、国家の平安を祈願しました。これは貴族の権力誇示や外交交渉の円滑化が主目的ではなく、宗教的な権威による社会の安定を目指したものでした。
問4	答え 4 聖武天皇	奈良時代の聖武天皇は、疫病や社会不安から国を守るために仏教を深く信仰し、東大寺に大仏を造立するとともに、全国各地に国分寺・国分尼寺を建てました。この時代に栄えた国際色豊かな文化を天平文化と呼び、聖武天皇の愛用品などが納められた正倉院の宝庫は、シルクロードを経由してもたらされた大陸の文物が現存していることで世界的に知られています。桓武天皇は平安京への遷都、推古天皇は飛鳥時代の政治、後三条天皇は摂関政治を抑えた親政で知られる人物です。
問5	答え 2 古事記	奈良時代の初期、律令国家としての体制を整える過程で、国家の成り立ちを体系化する必要が生じました。天武天皇の発案により、稗田阿礼が読み上げた伝承を太安万侶が記録する形でまとめられたのがこの歴史書です。神代から推古天皇までの出来事が記されており、同時期に編纂された『日本書紀』とともに、天皇による支配の根拠を裏付ける重要な役割を果たしました。
問6	答え 3 遣唐使が、唐の都である長安に集まっていた西アジアや中央アジアの文物を日本に持ち帰ったため	天平文化が国際色豊かになった背景には、遣唐使の派遣があります。当時の唐の都・長安は、シルクロードを通じて西アジアやインドなど世界各地の文化が集まる国際都市でした。遣唐使がこれらの文化や制度を日本へ持ち帰ったことで、日本でも国際的な性格を持つ文化が花開きました。
問7	答え 1 鑑真	当時の日本では、僧侶になるための公的な基準が曖昧であり、税を逃れるために勝手に僧を名乗る者が増えるなどの問題がありました。そこで、唐から正式な「戒律」を授けることができる高僧として招かれたのが鑑真です。彼は度重なる遭難で視力を失いながらも、不屈の精神で来日を果たし、日本の仏教制度の整備に大きく貢献しました。
問8	答え 4 僧侶が守るべき規律である「戒律」を導入することで、僧侶の資格を厳格化し、仏教による国家統制を整えるため	聖武天皇は仏教の力で国を治める「鎮護国家」の思想を進めましたが、当時は正式な授戒（戒律を授ける儀式）を行える僧がいませんでした。鑑真を招くことで、国が認めた僧侶のみが活動できる仕組みを作り、仏教の秩序と質を向上させることが当時の政府の狙いでした。なお、民衆への布教や社会事業で知られるのは行基です。
問9	答え 2 律令国家の仕組みにより、各地の特産物を納める調や、労役の代わりに布などを納める庸が、全国から都へ集まっていた。	律令制度の下では、地方の負担として「租・庸・調」が定められていました。このうち、土地にかかる「租（米）」は地方の倉庫に貯蔵されましたが、「庸（布など）」や「調（特産物）」は、負担者が都まで自力で運ぶ決まりでした。木簡に産地や品目が記されていたのは、都に到着した際に、どの地域の誰が義務を果たしたかを正確に管理するための仕組みが整っていたことを示しています。
問10	答え 4 神事をつかさどる神祇官と、政治全般を統括する太政官の二官が置かれた。	日本の律令制度は唐の官制（三省六部）を参考にしつつ、独自の工夫が加えられました。祭祀を重視する日本の伝統から、神事を行う「神祇官（じんぎかん）」を、一般行政を行う「太政官（だいいじょうかん）」と並ぶ高い地位に置いた「二官八省（にかんはっしょう）」の体制がとられたことが大きな特徴です。
問11	答え 2 口分田	律令制度のもとでは、全ての土地と人民を天皇が支配するという公地公民の原則がとられていました。これに基づき、班田収授法によって戸籍に登録された人々に一定の土地が割り当てられ、収穫の約3%を「租」として納める義務が課されました。この土地は本人の死後に国へ返還することとされていました。
問12	答え 3 国際的な性格	奈良時代、日本は唐の進んだ制度や文化を学ぶために遣唐使を派遣しました。当時の唐はシルクロード（絹の道）を通じて西アジアやインドとも活発に交流しており、世界各地の文物が集まる国際的な都市でした。それらが遣唐使によって日本に持ち込まれたため、正倉院の宝物に見られるような、世界各地の要素を併せ持った文化が形成されました。
問13	答え 1 白村江の戦いでの敗北後、唐や新羅の侵攻に備えるため	663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた日本（倭）は、大陸からの報復や侵攻の危機に直面しました。これに対抗するため、九州の外交・軍事の拠点である大宰府や、その周辺の沿岸部を警備する必要が生じ、防人の制度が整えられました。

- 問1 大化の改新から律令国家の形成期にかけて確立された、土地と人民を国家が直接支配する仕組みについて述べた文章のうち、正しいものはどれですか。 (2023年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 貴族や寺社が所有する大規模な私有地を「口分田」として公認し、そこから得られる収益を国家が管理する。 | 2. 新しく開墾した土地を「口分田」と呼び、開墾した者に三代にわたる私有を認める。 | 3. 戸籍に登録された六歳以上のすべての人々に「口分田」を与え、その人が死ぬと土地を国に返還させる。 | 4. 戸籍に基づいて、成人男性にのみ広大な土地を与え、その土地を自由に売買することを認める。 |
|--|---|--|--|
- 問2 奈良時代には律令制度に基づき、人々に「口分田」を割り当てる仕組みがありましたが、人口の増加によって分け与える土地が不足する事態となりました。この課題を解決し、土地の開墾を促すために聖武天皇が743年に出した、新しく開墾した土地の永久的な私有を認める法令を何といいますか。 (2023年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|----------|-----------|------------|
| 1. 公地公民の制 | 2. 班田収授法 | 3. 三世一身の法 | 4. 墾田永年私財法 |
|-----------|----------|-----------|------------|
- 問3 7世紀から9世紀にかけて、日本が唐（中国）に「遣唐使」を派遣した最大の目的として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------|-----------------------------|-----------------------|----------------------------|
| 1. 日本の特産品を売って銀や銅などの資源を大量に獲得すること | 2. キリスト教の布教を日本で許可してもらうための交渉 | 3. 唐の進んだ制度や文化を取り入れること | 4. 唐と軍事同盟を結び、朝鮮半島へ共同出兵すること |
|---------------------------------|-----------------------------|-----------------------|----------------------------|
- 問4 墾田永年私財法の制定が、その後の社会に与えた影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. すべての土地と人民を天皇が直接支配する公地公民の制度がより厳格になった。 | 2. 6歳以上の男女に口分田を与え、死後は国に返還させる班田収授法が全国で初めて実施された。 | 3. 豊臣秀吉によって全国の土地の広さや質が調査され、土地の所有者が確定した。 | 4. 貴族や寺社が財力を背景に大規模な開墾を行い、荘園と呼ばれる私有地が形成されるようになった。 |
|---|--|---|--|
- 問5 聖武天皇が全国に国分寺を建立させ、東大寺に巨大な大仏を造らせた歴史的背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 大陸から伝わった高度な鑄造技術を誇示し、近隣諸国に対して国威を示そうとしたため。 | 2. 遣隋使によってもたらされた新しい仏教の教えを、国民に広く普及させるため。 | 3. 疫病の流行や反乱などの社会的不安を、仏教の力によって鎮めようと考えたため。 | 4. 蘇我氏などの有力豪族が持つ権力を抑え、天皇中心の中央集権体制を確立するため。 |
|---|---|--|---|
- 問6 飛鳥時代から平安時代にかけての古代の日本で行われた、唐との交流やその影響について述べた文として正しいものはどれですか。 (2025年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 中世の時代に遣唐使が派遣され、鑑真によって新しい仏教の教えが伝えられた。 | 2. 朱印船を用いた貿易が盛んになり、その航路を利用して鑑真が古代の日本へ招かれた。 | 3. 遣唐使に代わって中世の朱印船が派遣されるようになり、大陸の文化が日本に広まった。 | 4. 遣唐使の派遣を通じて唐の文化や制度が取り入れられ、僧侶の鑑真が来日した。 |
|---|--|---|---|
- 問7 8世紀の日本では、仏教の教えが広まる一方で、僧侶が守るべき厳格な規律が整っていないという課題がありました。この状況を改善するために、聖武天皇の招きに応じ、5度の渡航失敗や失明という苦難を乗り越えて唐から来日した高僧は誰ですか。 (2025年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 鑑真 | 2. 最澄 | 3. 空海 | 4. 行基 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問8 班田収授法によって口分田を与えられた農民には、さまざまな税の負担が課せられました。このうち、口分田の収穫から約3パーセントの稲を納める義務を何と呼びますか。その名称と内容として適切なものを選びなさい。 (2018年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 「租」と呼ばれ、地方の役所に納められて国や地方の備蓄となった。 | 2. 「庸」と呼ばれ、都での労役の代わりに布を納める負担であった。 | 3. 「公出挙」と呼ばれ、国から稲を借りて利息をつけて返す制度であった。 | 4. 「調」と呼ばれ、地方の特産物を都まで運んで納める負担であった。 |
|------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
- 問9 奈良時代の平城京を中心とした国づくりにおいて、仏教の力で国の不安を取り除こうとする「鎮護国家」の思想に基づき、全国に国分寺・国分尼寺を建て、東大寺に大仏を造立した天皇は誰ですか。 (2021年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 天智天皇 | 2. 聖武天皇 | 3. 聖徳太子 | 4. 藤原道長 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問10 奈良時代に編纂された書物のうち、中央政府の正史としてまとめられた『日本書紀』や『古事記』と比較した際の、『風土記』の特徴として適切な説明はどれですか。 (2023年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---------------------------------------|
| 1. 地方の国ごとに、土地の産物や地名の由来、古くから伝わる伝承などが記録された。 | 2. 律令制度に基づく税の徴収を目的として、各地の戸籍や土地の面積を詳細に記した。 | 3. 万葉仮名を用いて、天皇から防人、農民まで幅広い階層の人々が詠んだ歌をまとめた。 | 4. 天皇の系譜や国家の成り立ちを、神話や伝説を交えて年代順に体系化した。 |
|---|---|--|---------------------------------------|
- 問11 遣唐使の要請によって来日した鑑真が、当時の日本において果たした最も重要な役割は何ですか。当時の政治体制（律令制度）との関わりに注目して選んでください。 (2019年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|-------------------------------------|---|
| 1. 正式な僧となるための儀式を行い、僧が守るべき規範を広めて国家による仏教統制を支えた | 2. 武士の勢力を結集して平将門の乱を鎮め、天皇中心の政治を盤石なものにした | 3. 東北地方の豪族をまとめ上げ、平泉を中心に独自の仏教文化を開かせた | 4. 大化の改新のあとに、公地公民の原則に基づいた新しい土地制度を全国に広めた |
|--|--|-------------------------------------|---|
- 問12 奈良時代の聖武天皇の時期、政府はそれまで維持していた「すべての土地は国家のものである」という公地公民の原則を緩和しました。新しく開墾した土地を永久に個人のものであるとして認めることで、人々の開墾意欲を高め、税収を確保しようとした法令を何といいますか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|------------|-----------|----------|
| 1. 武家諸法度 | 2. 墾田永年私財法 | 3. 公事方御定書 | 4. 御成敗式目 |
|----------|------------|-----------|----------|
- 問13 奈良時代に設けられた「防人」の制度について述べた文として、当時の社会状況や地理的条件を踏まえた正しい説明はどれですか。 (2017年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|-------------------------------------|--|------------------------------------|
| 1. 朝鮮半島から移り住んだ渡来人によって組織され、東北地方の蝦夷を鎮圧した。 | 2. 大宰府の役人として採用され、大陸からの使節を接待する役割を担った | 3. 主に東国の農民から選ばれ、国防の重要拠点であった九州北部の警備にあたった。 | 4. 朝廷に直接仕える近衛兵として、都の平城京の警護を専門に行った。 |
|---|-------------------------------------|--|------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 戸籍に登録された六歳以上のすべての人々に「口分田」を与え、その人が死ぬと土地を国に返還させる。	律令制度の下では「公地公民」の原則に基づき、土地は国家のものとされました。そのため、戸籍を作成して民衆を把握し、六歳以上の男女に「口分田」を割り当て、死後は国に返すという班田収授法が実施されました。これにより、国家は安定して「租（稲の収穫の約3%）」を徴収する仕組みを整えました。
問2	答え 4 墾田永年私財法	律令国家の基本原則である「公地公民」のもとでは、土地はすべて国家のものとされていましたが、人口増加に伴う「口分田」の不足が深刻化しました。そこで、政府は人々の開墾意欲を高めるために、苦勞して切り開いた土地を永久に自分のものにすることを認める「墾田永年私財法」を制定しました。これが後に、貴族や寺院による大規模な私有地である「荘園」が広がるきっかけとなりました。
問3	答え 3 唐の進んだ制度や文化を取り入れること	当時の日本は、強大な中央集権国家であった唐の法律（律令）や仏教、芸術などを学ぶことで、日本の国家体制を整えようとしていました。この使節団には、役人のほかに最澄や空海のような学問僧、さらには留学生も多く含まれていました。
問4	答え 4 貴族や寺社が財力を背景に大規模な開墾を行い、荘園と呼ばれる私有地が形成されるようになった。	墾田永年私財法の制定により、開墾した土地の永代私有が認められると、豊かな経済力を持つ中央の貴族や大寺社は、農民や浮浪者を利用して盛んに土地を切り開きました。こうして成立した大規模な私有地は荘園と呼ばれ、律令国家が理想とした公地公民制を崩壊させる要因となりました。
問5	答え 3 疫病の流行や反乱などの社会的不安を、仏教の力によって鎮めようと考えたため。	当時の日本は、天然痘（疫病）の爆発的な流行や、藤原広嗣の乱といった政治的混乱の中にありました。聖武天皇は、このような災いから国家を救うために鎮護国家の思想にすがり、東大寺を全国の国分寺の総本山と位置づけて大仏を建立しました。
問6	答え 4 遣唐使の派遣を通じて唐の文化や制度が取り入れられ、僧侶の鑑真が来日した。	古代の日本は、唐の優れた制度や文化を吸収するために遣唐使を派遣しました。その交流のなかで、鑑真が日本の仏教の規律を整えるために多くの困難を乗り越えて来日しました。朱印船や中世という語句は、遣唐使が活躍した古代よりも後の時代の事象を指すため、不適切です。
問7	答え 1 鑑真	当時の日本には僧侶が正式な資格を得るための「戒律」を受ける仕組みが不足していました。唐の僧である鑑真は、この戒律を伝えるために日本へ渡り、東大寺に戒壇（戒律を受ける場所）を設けました。これにより、国家公認の僧侶としての質を維持する制度が確立されました。選択肢にある行基は民衆への布教や社会事業、最澄と空海は平安時代初期に新しい仏教を伝えた人物です。
問8	答え 1 「租」と呼ばれ、地方の役所に納められて国や地方の備蓄となった。	口分田の面積に応じて課せられた税が「租」です。これは収穫した稲の約3%という比較的軽い負担であり、地方にある「正倉」という倉庫に納められ、地方政治の財源や飢饉に備えた備蓄として利用されました。これに対し、都まで運ぶ必要があった「調」や「庸」は農民にとって非常に重い負担となっていました。
問9	答え 2 聖武天皇	奈良時代、社会の混乱や伝染病の流行が続くなか、仏教の力によって国家を安定させようという政策がとられました。この政策を推進したのが聖武天皇であり、皇后である光明皇后とともに仏教を厚く信仰し、都の東大寺に巨大な大仏を建立しました。聖徳太子は飛鳥時代、天智天皇（中大兄皇子）は公地公民を定めた大化の改新、藤原道長は平安時代の摂関政治の人物です。
問10	答え 1 地方の国ごとに、土地の産物や地名の由来、古くから伝わる伝承などが記録された。	風土記は、中央から派遣された国司がその国の情報をとりまとめたものです。朝廷が各地域の資源や文化を把握しようとした目的が背景にあります。一方で、日本書紀や古事記は天皇中心の国家形成の正当性を説くための歴史書であり、記述の対象や目的が異なります。
問11	答え 1 正式な僧となるための儀式を行い、僧が守るべき規範を広めて国家による仏教統制を支えた	当時の日本では、重い税（租・庸・調）を逃れるために勝手に僧侶になる者が増え、国家財政や秩序に影響を与えていました。鑑真は、正式な僧となるための資格を授ける「授戒」の仕組みを導入し、僧侶の質を管理することで、律令国家における仏教のあり方を整えることに大きく貢献しました。
問12	答え 2 墾田永年私財法	743年に制定されたこの法令は、人口増加による食糧不足を解消するために、自らの力で新しく耕した土地については、子孫代々にわたって私有することを許可したものです。それ以前は三世代に限定して私有を認めるなどの措置が取られていましたが、より強い動機づけのために永年（永久）の私有が認められました。
問13	答え 3 主に東国の農民から選ばれ、国防の重要拠点であった九州北部の警備にあたった。	防人は、当初は全国から集められましたが、後に主に東国（現在の関東地方など）の農民がその任にあたることとなりました。派遣先は太宰府の管轄下にある九州北部であり、家族と離れて遠方の国境を守るといった重い負担は、当時の農民を苦しめる要因の一つとなりました。東北の蝦夷対策にあたったのは主に「鎮守府」などに配属された兵士であり、防人とは区別されます。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大宰府	九州北部は地理的に中国大陸や朝鮮半島に近いため、古くから外交の拠点となりました。大宰府は、唐や新羅などの使節を迎え入れる外交機能と、外敵の侵入を防ぐ防衛機能の両方を兼ね備えており、都から離れた場所にある重要な行政機関という意味で「遠の朝廷」と呼ばれました。
問2	答え 2 金印によって中国との外交を行い、後に渡来人から漢字や儒教などの文化が伝えられ、律令国家の形成期に富本銭や和同開珎が作られた。	日本の古代史は、1世紀の金印授受（中国との外交）から始まり、5世紀前後の古墳時代に渡来人が大陸の技術や文化（漢字・儒教・須恵器など）を伝え、7世紀後半から8世紀にかけて律令国家としての体制を整える一環として、富本銭や和同開珎といった貨幣が鑄造されるという流れを辿ります。金印に刻まれているのは漢字であり、インダス文字ではありません。
問3	答え 3 710年に元明天皇が藤原京から奈良に遷都し、律令政治の拠点とした。	律令体制を強化し、天皇を中心とする中央集権国家を完成させるために、大規模な遷都が行われました。この時期は国際色豊かな「天平文化」が栄え、遣唐使を通じて大陸の文化が数多くもたらされたことも特徴です。
問4	答え 2 正しい戒律を伝えて僧侶の資格を厳格化し、律宗を広めて仏教界の秩序を整えるため	当時の日本では、税を逃れるために勝手に僧侶を名乗る者が増えたことが社会問題となっていました。そのため、国家は唐から高僧である鑑真を招き、正式な儀式（授戒）を経て僧侶となる仕組みを確立させました。これにより、仏教界の質と規律が向上しました。なお、天台宗は最澄、真言宗は空海、社会事業は行基に関連する内容です。
問5	答え 4 国司は中央政府から派遣された官吏で、一定の任期があった。一方、郡司はかつての有力な地方豪族が任命され、その地位は世襲されることが多かった。	律令制における地方統治は、中央から派遣される国司と、地元根付いた勢力である郡司の連携によって行われました。国司は中央の意向を反映させるために任期制（公選）とされましたが、郡司は在地支配の実情に合わせて旧来の豪族を任命し、その地位は原則として世襲されました。この仕組みを通じて、中央政府は全国に徴税や戸籍の作成といった制度を浸透させようとしていました。
問6	答え 1 九州北部に大宰府を置き、防人や水城などを配置して東アジアの情勢に対応した。	7世紀半ばの白村江の戦い以降、東アジア情勢の緊迫化を受けて九州北部に大宰府が整備され、防人や水城を設置して防衛体制が強化されました。東北地方の防衛には陸奥国に鎮守府が置かれました。
問7	答え 1 聖武天皇の遺品を納めた正倉院に見られるような、国際色豊かな貴族文化	奈良時代の聖武天皇の時期を中心に栄えた文化は天平文化と呼ばれます。この文化の最大の特徴は、唐の文化や仏教の影響を強く受けた国際的な性格にあります。その象徴として、東大寺正倉院には、シルクロードを経由してペルシャ（イラン）などから伝わった国際色豊かな工芸品が数多く収められています。
問8	答え 1 土地の私有を認めることで人々の開墾意欲を高め、不足していた田地を増やして税収を安定させるため。	当時は人口の増加により、農民に与える口分田が不足し、政府は税（租）を徴収する基盤を失いつつありました。そこで、苦勞して開墾した土地が一定期間で国に没収される仕組みを改め、永年私有を認めることで、田地を開発する動機づけを行いました。
問9	答え 2 万葉集	奈良時代の文化を代表する日本最古の和歌集です。約4500首もの歌が収録されており、その作者が天皇、貴族から防人、農民まで多岐にわたる点は、当時の文化や言葉の広まりを示す重要な特徴です。選択肢にある『古今和歌集』は平安時代、『新古今和歌集』は鎌倉時代に成立したものであり、時代背景が異なります。
問10	答え 1 唐の進んだ律令制度を学び、天皇を中心とした法に基づく中央集権的な統治体制を構築するため。	当時の日本は、天皇を頂点とした強力な国家体制を築くことを急いでいました。そのため、唐の高度な法律体系（律令）や官僚制度、租・庸・調などの税制をモデルにする必要がありました。遣唐使が持ち帰った知識は、大宝律令の完成や平城京の造営などに大きく貢献しました。
問11	答え 2 唐の長安	平城京は、元明天皇の時代の710年に、それまでの藤原京から遷都して造営されました。この都は、当時、東アジアの政治・文化の中心として栄えていた唐の都である「長安」をモデルとして設計されており、碁盤の目のように区切られた整然とした街並みが特徴です。当時の日本は遣唐使を派遣し、大陸の進んだ制度や文化を積極的に取り入れていました。
問12	答え 4 天皇による国内支配の正当性を、神話や伝承といった歴史的経緯をもとに内外に示すため。	律令制に基づいた中央集権国家の確立を目指していた当時の朝廷にとって、天皇が日本を統治する正統な理由を公式に記録することは不可欠な事業でした。そのため、バラバラに残っていた神話や有力氏族の伝承を一つの「正史」としてまとめ、国家の正当性を主張しようとしていました。なお、地方の地理や産物を記録したのは『風土記』、和歌の収集は『万葉集』の役割です。

- 問1 奈良時代の聖武天皇の時期を中心として、遣唐使がもたらした大陸の文化や仏教の影響を強く受けて発展した、国際色豊かな文化の名称を答えなさい。 (2018年 福島県公立入試 類似)
1. 白鳳文化 2. 飛鳥文化 3. 天平文化 4. 国風文化
- 問2 律令国家が形成される過程で整えられた、土地と人民を直接支配するための仕組みに関する問題です。戸籍に登録された6歳以上の男女に「口分田」を与え、その人が死ぬと土地を国に返させる制度を何といいますか。 (2021年 大分県公立入試 類似)
1. 地租改正 2. 太閤検地 3. 農地改革 4. 班田収授法
- 問3 奈良時代末期に成立した日本最古の和歌集で、大伴家持が編纂に関わったとされる作品を次から選びなさい。 (2023年 新潟県公立入試 類似)
1. 古今和歌集 2. 懷風藻 3. 新古今和歌集 4. 万葉集
- 問4 律令国家が確立された後、政府は支配地域をさらに広げるために東北地方への進出を強めました。9世紀初め、桓武天皇によって征夷大將軍に任命され、蝦夷の軍事指導者であったアテルイを降伏させるなど、北方の支配拡大に大きく貢献した人物は誰ですか。 (2019年 徳島県公立入試 類似)
1. 中大兄皇子 2. 北条時宗 3. 坂上田村麻呂 4. 足利尊氏
- 問5 奈良時代に成立した歴史書『日本書紀』には、当時の対外関係についても記されている。推古天皇の時代に、中国の隋へ使者として派遣されたと記述されている人物は誰か。 (2017年 山形県公立入試 類似)
1. 小野妹子 2. 板垣退助 3. 北条時宗 4. 近松門左衛門
- 問6 重要文化財（建造物等）の指定件数に関する統計において、東京都や京都府に次いで全国3位の約1500件を記録している県があります。世界最古の木造建築物である法隆寺などの古い寺院が数多く存在し、かつて日本の政治の中心地であった歴史を持つこの都道府県はどこですか。 (2016年 長野県公立入試 類似)
1. 奈良県 2. 和歌山県 3. 滋賀県 4. 大阪府
- 問7 律令国家の政治組織において、天皇の下には祭祀を司る神祇官と、行政を統括する太政官が置かれました。この地方行政の仕組みにおいて、中央の都から派遣された「国司」のもとで、地元の有力な豪族が任命されて実務を担った役職は何と呼ばれますか。 (2023年 岡山県公立入試 類似)
1. 検非違使 2. 防人 3. 郡司 4. 県令
- 問8 710年に遷都された平城京を中心とする時代において、社会の不安を鎮めるために仏教の力を利用し、東大寺の建立や大仏の造営を行った人物は誰ですか。 (2026年 富山県公立入試 類似)
1. 後白河天皇 2. 足利義満 3. 桓武天皇 4. 聖武天皇
- 問9 日本の仏教文化における彫刻作品について、製作された時期とその特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2026年 福島県公立入試 類似)
1. 飛鳥文化において、東大寺南大門に安置されている金剛力士像のように、力強く筋肉質な仏像が作られた。
2. 平安時代の国風文化において、広隆寺にある弥勒菩薩像のように、指先を頬にあてて思索にふける姿の仏像が作られた。
3. 鎌倉文化において、平等院鳳凰堂に安置されている阿彌陀如来像のように、穏やかで優美な表現の仏像が作られた。
4. 奈良時代の天平文化において、興福寺の阿修羅像のように、写実的で繊細な表現の仏像が作られた。
- 問10 大宝律令が定められた後の社会では、政府は人々の名前や性別を記録した戸籍を作成し、それをもとに口分田を人々に分け与える仕組みを整えました。この制度において、収穫した稲の約3%を納める「租」とともに、地方の特産物を都まで運んで納める義務のことを何と呼びますか。 (2018年 滋賀県公立入試 類似)
1. 雑徭 2. 調 3. 防人 4. 庸
- 問11 710年に、唐の都である長安をモデルとして現在の奈良県に造られた、律令国家の政治の中心地となった都の名前を選びなさい。 (2025年 福岡県公立入試 類似)
1. 藤原京 2. 平城京 3. 難波京 4. 平安京
- 問12 古代の租税制度について述べた次の説明のうち、全国各地から平城京に集められた「調」の説明として正しいものはどれか。 (2021年 奈良県公立入試 類似)
1. 口分田の面積に応じて、収穫した稲の一部を地方の役所に納める。
2. 九州北部の警備のために、防人として兵役につく。
3. 都での労働の代わりとして、布を中央政府に納める。
4. 各地の絹や魚といった特産品を、納税者が都まで運んで納める。
- 問13 聖武天皇が国ごとに国分寺や国分尼寺を建て、都に東大寺の大仏を造営した理由として、最も適切な説明を選びなさい。 (2025年 岩手県公立入試 類似)
1. 武士の軍事力を結集して新しい政権を樹立するため
2. 地方の豪族を強力な武力で圧迫して支配を強めるため
3. 大陸との貿易を独占して金銀などの財貨を集めるため
4. 仏教の力によって疫病や社会不安などの災いから国を護るため
- 問14 墾田永年私財法が出されたあとの社会の変化について、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)
1. 貴族や寺院が周辺の農民や浮浪した人々を使って大規模な開墾を進め、私有地である荘園を形成した。
2. 有力な農民たちが株仲間の結成を認められ、問屋制家内工業を発展させた。
3. 商業を営む商人が同業者組織である座を結成し、幕府から独占販売の権限を得るようになった。
4. 武士の領地が細分化されるのを防ぐため、長男のみが土地を継承する単独相続が一般的になった。
- 問15 日本最古の歌集である『万葉集』には、九州北部の沿岸を守る任務に就いた男性が、故郷に残した妻や家族を想って詠んだ「防人の歌」が多く収められています。この当時の社会状況や制度に関する説明として最も適切なものはどれか。 (2024年 千葉県公立入試 類似)
1. 防人の制度は、東北地方における勢力拡大を目的として、西日本の農民を北関東へ移住させるために作られた制度である。
2. 防人は九州北部の沿岸警備を任務としていたが、その負担があまりに重かったため、家族との別れを悲しむ切実な和歌が詠まれる背景となった。
3. 防人は都を警備する「衛士」の一部が希望して就く役職であり、九州へ赴くことは農民にとって名誉なこととして捉えられていた。
4. 防人の任期は1年と短く、その間の食料は国から支給されたため、農民たちは積極的に和歌を詠むなどの文化的余裕があった。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 天平文化	聖武天皇の時代には、遣唐使によって唐の進んだ制度や文化が導入されました。この時期の文化は仏教による国家の安定（鎮護国家）を願う特色が強く、国際色豊かな「天平文化」として知られています。飛鳥文化は聖徳太子の時代、国風文化は平安時代中期に日本風の文化として発達したものです。
問2	答え 4 班田収授法	律令制度における「公地公民」の原則に基づいた土地制度です。政府は「戸籍」を作成して民衆を把握し、それに基づいて「口分田」を割り当てました。この土地は売買が禁止されており、利用者が死亡した際には「国に返す」ことが義務付けられていました。これにより、国家は安定した税収（租など）を確保しようとしていました。
問3	答え 4 万葉集	奈良時代を代表する文化遺産であり、約4,500首の歌が収められています。平安時代に編纂された初の勅撰和歌集である『古今和歌集』や、鎌倉時代の『新古今和歌集』と時代の区別をつけることが重要です。また、『懷風藻』は日本最古の「漢詩集」であり、和歌集である本作とは区別されます。
問4	答え 3 坂上田村麻呂	律令国家の形成期から拡大期にかけて、東北地方に住む人々（蝦夷）への支配を広げることは国家の大きな課題でした。坂上田村麻呂は征夷大將軍として組織的な軍事行動を行い、胆沢城（現在の岩手県）を築くなどして政府の支配圏を北へと押し広げました。これは、律令国家が成熟し、領域国家として拡大していった過程を示す重要な出来事です。
問5	答え 1 小野妹子	『日本書紀』は国家の公式な歴史書であり、歴代天皇の事績や外国との交渉記録が詳細にまとめられています。聖徳太子（厩戸王）の外交政策の一環として、当時の中国（隋）へ派遣された小野妹子の事績は、飛鳥時代の重要な国際交流の記録として収められています。他の選択肢の人物は、いずれも鎌倉時代以降に活躍した人物です。
問6	答え 1 奈良県	奈良県は、7世紀から8世紀にかけて平城京が置かれるなど、日本の政治や文化の拠点として栄えた歴史があります。そのため、当時の高い建築技術を伝える法隆寺などの歴史的建造物が数多く現存しており、重要文化財の指定件数が非常に多いことが特徴です。
問7	答え 3 郡司	律令国家の地方支配は、国・郡・里という単位で行われました。中央から派遣された国司が「国」の政治を監督し、その下の単位である「郡」では、地元の状況に詳しい豪族が「郡司」に任命されて、租税の徴収や戸籍の管理などの実務を担当しました。これにより、中央政府の命令を地方の末端まで浸透させようとしていました。
問8	答え 4 聖武天皇	奈良時代、相次ぐ疫病や政変などの社会不安に対し、仏教の力で国家の安寧を願う「鎮護国家」の思想が広まりました。この思想に基づき、現在の奈良県にあたる平城京に総国分寺として東大寺を建て、巨大な大仏を造営したのが聖武天皇です。選択肢にある他の人物のうち、平安京へ遷都したのは桓武天皇、平安時代末期に院政を行ったのは後白河天皇、室町時代に金閣を建てたのは足利義満です。
問9	答え 4 奈良時代の天平文化において、興福寺の阿修羅像のように、写実的で繊細な表現の仏像が作られた。	天平文化は国際色豊かで写実的な表現が特徴であり、興福寺の阿修羅像はその代表例です。他の選択肢については、東大寺の金剛力士像は鎌倉時代の彫刻、広隆寺の弥勒菩薩像は飛鳥時代の彫刻、平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像は平安時代（国風文化）の彫刻であり、それぞれの時代の文化背景に基づいた特徴を持っています。
問10	答え 2 調	律令制下では、戸籍に基づいて6歳以上の男女に口分田を与える班田収授法が行われました。土地を与えられた農民には重い税が課されており、収穫した稲を納める「租」のほかに、各地の特産品（絹や布、糸、海産物など）を都まで直接運んで納める「調」という負担がありました。このほか、都での労役の代わりに布を納める「庸」なども存在し、農民の生活を圧迫しました。
問11	答え 2 平城京	奈良時代の始まりにあたる710年に、元明天皇によって遷都されました。唐の国際的な文化を取り入れるため、その首都である長安を模して碁盤の目のように区画された都市計画がなされました。この都を中心に、天皇を頂点とする律令政治が展開されました。
問12	答え 4 各地の絹や魚といった特産品を、納税者が都まで運んで納める。	律令制度下の「調」は、地方ごとの特産物を都に届ける義務を指します。都の役人の給与や儀式の費用、国家の資材として利用されました。選択肢にある「稲の一部を納める」のは租、「労役の代わりに布」は庸、「九州北部の警備」は防人をそれぞれ指しており、制度ごとに納める品目や場所、目的が明確に区分されていました。
問13	答え 4 仏教の力によって疫病や社会不安などの災いから国を護るため	当時の奈良時代には、疫病の流行や政治の動揺といった社会不安が広がっていました。聖武天皇は仏教の力によって国を治め、不安を和らげようとする鎮護国家の思想のもとで国分寺や東大寺を建てました。
問14	答え 1 貴族や寺院が周辺の農民や浮浪した人々を使って大規模な開墾を進め、私有地である荘園を形成した。	この法令により土地の永久私有が認められたことで、財力のある貴族や大寺院は積極的に土地を開墾し、自らの私有地（初期荘園）を拡大させていきました。これにより、律令制の基本である「公地公民」の原則が実質的に崩壊し、中世の荘園公領制へとつながる大きな転換点となりました。
問15	答え 2 防人は九州北部の沿岸警備を任務としていたが、その負担があまりに重かったため、家族との別れを悲しむ切実な和歌が詠まれる背景となった。	律令制下における防人の負担は過酷なものでした。特に東国から九州北部という遠隔地への派遣は、当時の交通状況では命がけであり、3年という任期の間、農作業ができないことや自己負担による困窮は農民を苦しめました。『万葉集』に収められた防人の和歌は、こうした制度による悲劇や家族への強い情愛を現代に伝える貴重な史料となっています。東北の警備と開発を担ったのは主に「鎮守府」や「柵戸（きのへ）」に関わる人々です。

1. 国司 2. 郡司 3. 里長 4. 防人

1. 班田収授の法 2. 公地公民の制 3. 三世一身の法 4. 租・庸・調の制

1. 桓武天皇 2. 足利義滿 3. 聖武天皇 4. 後白河天皇

1. 雜徭 2. 調 3. 庸 4. 租

1. 日本独自のガラス製造技術が極めて高く、古代から西方へ輸出されていたため

1. 地方の特産品を都まで直接運んで納めるもので、その運搬にかかる費用や食料は民衆の自己負担であった。
2. 都での労役の代わりに布を納めるもので、都までの運搬費用は国が負担した。
3. 年間で60日を限度として、地方の国司の命令により土木工事などの労働に従事した。
4. 口分田の収穫から約3%の稲を納めるもので、主に地方の役所の倉庫に保管された。

1. 各地の関所で通行料を徴収し、その記録を木札にまとめて保管していたこと	2. 紙が普及していなかったため、農民たちが日々の家計簿を木に記していたこと	3. 地方の農民が土地の有力者に対して、収穫した米を年貢として納めていたこと	4. 律令国家が全国的な徴税体系を整え、地方の特産物を都に集約させていたこと
---------------------------------------	--	--	--

1. 聖武天皇とともに仏教を厚く信仰した光明子の影響もあり、国分寺・国分尼寺の建立が進められた。
2. 藤原氏が摂政・関白として実権を握る中で、浄土信仰に基づき阿弥陀堂建築が全国に広まった。
3. 藤原道長が権勢を誇った時代に、唐風の文化から脱却したかな文字による文学が発達した。
4. 聖徳太子が推古天皇を助けて政治を行い、法隆寺などの優れた建築や彫刻が残された。

1. 日本書紀は、各地方の産物や土地の様子を詳しく調査し、税の徴収を効率化するために作られた。	2. 風土記は、全国の優れた和歌を収集することで、貴族の教養を高めることを目的とした。	3. 古事記は、神話や国の成り立ちを記すことで、天皇による統治の由来を明らかにしようとした。	4. 万葉集は、仏教の教えを広めるために、聖武天皇の時代に国ごとに作成が命じられた。
---	---	--	--

1. ①口分田 ②三世一身の法 2. ①検地 ②墾田永年私財法 3. ①荘園 ②大宝律令 4. ①口分田 ②墾田永年私財法

1. 収穫した稲の3%程度を、地方の役所に貯蔵する仕組みがあったため	2. 地方の特産物を都へ納める「調」という税制が定められていたため	3. 地方の役所で働く代わりに、10日間の労働を都で行う義務があったため	4. 防人として九州へ派遣される兵士が、食料として持参したため
------------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------

1. 雜徭 2. 調 3. 租 4. 庸

1. 太閤検地が実施されたことで、土地の所有者が確定し、年貢を納める責任者が明確になった。
2. 班田収授の法が制定されたことで、農民に口分田が与えられるようになり、公地公民の原則が確立された。
3. 三世一身の法が制定されたことで、三代にわたる土地の私有が認められ、農民の開墾意欲が永続的に維持されるようになった。
4. 墾田永年私財法が制定されたことで、貴族や寺院による大規模な土地の私有が進み、荘園が広がるきっかけとなった。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 国司	大宝律令に基づき、地方は「国・郡・里」という単位に区分されました。このうち、最上位の行政単位である「国」の長官として、都の中央政府から派遣された官吏が国司です。国司は任期が定められており、一定期間ごとに交代する仕組みとなっていました。
問2	答え 1 班田収授の法	唐の均田制を参考にした土地制度です。政府は人々に口分田を与えて農業を行わせる代わりに、収穫した稲の一部を「租」として納めさせました。この循環によって、国家が土地と人民を直接支配することを目指しました。
問3	答え 3 聖武天皇	奈良時代、相次ぐ疫病や政変などの社会不安に対し、仏教の力で国家の安寧を願う「鎮護国家」の思想が広まりました。この思想に基づき、現在の奈良県にあたる平城京に総国分寺として東大寺を建て、巨大な大仏を造営したのが聖武天皇です。選択肢にある他の人物のうち、平安京へ遷都したのは桓武天皇、平安時代末期に院政を行ったのは後白河天皇、室町時代に金閣を建てたのは足利義満です。
問4	答え 2 調	律令政治において、絹や布などの地方の特産品を都へ納める税は「調」と呼ばれます。収穫した稲を納める税は「租」、都での労役に代えて布などを納める税は「庸」となります。
問5	答え 4 シルクロードを通じた東西交流により、西方の文化が東方へと伝播したため	正倉院や福岡の遺跡で見つかったガラス製容器は、当時の日本においてこれほど高度なガラス工芸技術が未発達であったことから、海外からの輸入品であると考えられます。これらはシルクロードという広大な交易路を通り、中国を経由して日本にまで到達しました。この事実は、古代の日本が大陸を通じて遠く離れた西方の文化とつながっていたことを証明しています。
問6	答え 1 地方の特産品を都まで直接運んで納めるもので、その運搬にかかる費用や食料は民衆の自己負担であった。	律令制下の税のうち、「租」は収穫した稲を地方の倉庫に納めるものでしたが、「調」や「庸」は遠く離れた都まで歩いて運搬して納める必要がありました。この運搬にかかる費用や道中の食料はすべて納税者本人が負担しなければならず、当時の民衆にとって肉体的・経済的に非常に重い負担となっていました。選択肢にある稲の徴収は「租」、労役の代わりに布は「庸」、地方での労働は「雑徭」の説明です。
問7	答え 4 律令国家が全国的な徴税体系を整え、地方の特産物を都に集約させていたこと	木簡は荷札としての役割を果たしており、そこには送り元の「国名・郡名」や、税の品目である「調」などの文字が記されています。これが都の宮殿跡から大量に見つかるということは、中央政府（律令国家）が全国の農民を戸籍で把握し、各地の特産物を組織的に都へ運ばせていた制度的な仕組みが、実際に機能していたことを裏付けています。
問8	答え 1 聖武天皇とともに仏教を厚く信仰した光明子の影響もあり、国分寺・国分尼寺の建立が進められた。	光明子は、父である藤原不比等の死後、藤原氏の権勢を維持するために聖武天皇の皇后となりました。彼女は熱心な仏教徒であり、病人の治療や貧しい人々の救済を目的とした施設（施薬院・悲田院）を設置したほか、夫である聖武天皇が進めた国分寺・国分尼寺の建立を強く後押ししました。これが天平文化における仏教の普及に大きく貢献しました。
問9	答え 3 古事記は、神話や国の成り立ちを記すことで、天皇による統治の由来を明らかにしようとした。	古事記は、当時の天皇が日本を治める正当性を示すために、古い伝承や神話を整理してまとめられた歴史書です。選択肢にある「地方の産物や土地の様子」を記したのは風土記であり、「和歌を収集」したのは万葉集です。それぞれの書物は、律令国家としての体制を整える中で、文化や政治的な意図を持って作成されました。
問10	答え 4 ①口分田 ②墾田永年私財法	班田収授法において、6歳以上の男女に与えられる土地を口分田と呼びますが、人口の増加に伴ってこの土地が不足しました。政府は当初、三世代に限り所有を認める「三世一身の法」を出しましたが、期限が来ると土地が返還されるため農民の意欲が上がらず、最終的に永久私有を認める「墾田永年私財法」へとつながりました。
問11	答え 2 地方の特産物を都へ納める「調」という税制が定められていたため	古代の税制である「調」は、各地の特産品を中央政府に納める制度でした。これによって、内陸部にある都にも全国から布や魚介類、塩などが集まり、国家の財源や役人への報酬、儀式の供え物として利用されました。選択肢にある「稲を納める（租）」や「労働の代わりに布を納める（庸）」、あるいは「防人」などの制度と区別して理解する必要があります。
問12	答え 2 調	律令制における「調」は、各地の特産品を中央政府に納める税です。これに対して「租」は収穫した稲を納めるもの、「庸」は都での労役の代わりに布を納めるものを指します。調は納税者が自ら都まで運ぶ必要があったため、農民にとって非常に重い負担となりました。
問13	答え 4 墾田永年私財法が制定されたことで、貴族や寺院による大規模な土地の私有が進み、荘園が広がるきっかけとなった。	奈良時代、人口の増加に伴い、政府が農民に分け与える土地（口分田）が不足しました。これに対処するため、743年に「墾田永年私財法」が制定され、新しく開墾した土地の永久私有が認められました。この法により、豊富な財力を持つ貴族や寺院が大規模な土地を所有する「荘園」が形成されるようになり、それまでの「すべての土地と人民は国家のもの」とする公地公民の原則が崩れていくことになりました。